

# 美しい「羽」

長く大きな胸びれがトレードマークのセミホウボウ科の魚。英名を Flying gurnard (空飛ぶホウボウ) といいます。初めて見た方もいるでしょう。食材としては知名度の低い魚です。世界に二属七種、日本からはそのうち四種が知られています。

んぐりとした体から長く伸びた美しい胸びれをご覧ください。まるでセミの体から伸びた羽のように見えませんか？そこには「星」がちりばめられたような斑点模様が丁寧に描かれています。一方、しなやかなひれとは対照的に、頭部は骨質板で、体は硬いうろこで、全身がつちりと覆われています。外見が似ているためにホウボウの仲間だと思われがちですが、ホウボウ科とは内部骨骼にかなりの相違があり、遺伝的に遠いグループであることが分かつてきます。

セミホウボウ科を表すDactylopteridaeは、ギリシャ語のdaktylos(指)と、pterygion(ひれ)から「指のあるひれ」を意味します。大きな胸びれは空を飛ぶためにあるのではなく、体の輪郭をぼかし、体を大きく見せるのに効果的。歌手ジュディ・オングさんの『魅せられて』の衣装のように、胸びれを大きく開いた状態で海底近くをゆっくり泳ぎながら、時にグループであることが分かつてきます。

## 魚図が複数描かれたわけとは？

グラバー図譜には珍しく、ホシセミホウボウ魚図は三枚あります。当時、図譜を編さんした倉場富三郎が魚図に書き込んだ種名はそれぞれ、セミホウボウ、オキセミホウボウ、ホシセミホウボウでした。つまり、すべて別種だと考えたのでしょうか。しかし、あらためて魚図に描かれた形態に基づき検討してみると、後頭部に長く伸びた遊離棘と背びれの間に短い遊離棘がないことなどから、三団ともホシセミホウボウと同定できます。富三郎は文献と標本を詳しく調べた上で種名を決定しましたが、たとえ専門家であっても魚の種類を同定するのは難しいことなのです。

## 二人の画家が描いた魚図

ホシセミホウボウで興味深いのは、すべての構図が極めてよく似ていること。ホシセミホウボウ独特の胸び

## 江戸時代に描いた魚図

グラバー図譜の時代からさらに百年近く、一八〇〇年代にさかのぼりますよう。江戸時代、シーボルトらの依頼で出島オランダ商館の絵師を務めた川原慶賀は、當時ヨーロッパで確立された分類学に基づく学術絵図の描き方を直接学びました。

その川原慶賀の描いたホシセミホウボウの図とも、小田紫星の魚図は似ているようです。つまり、小田は川原の図を参考にしたのではないかと推測します。中村と同じく小田もまた、独特な形のホシセミホウボウを前に、どう描こうかと思い悩んだに違いありません。しかし小田は、川原の絵図とは魚体の角度を少し変えて描いたことで、本種の分類形質の一つとなる背びれの前の遊離棘がないことまではつきり確認できる魚に仕上げています。

画家たちに焦点を当てれば、また新たな魅力が見えてきます。グラバー図譜に興味は尽きません。



# Glover Atlas ホシセミホウボウ

*Daicucus peterseni*  
画家 中村三郎画(左) / 小田紫星画(右)



解説 山口敦子  
長崎大学水産・環境科学  
総合研究科教授

YAMAGUCHI Atsuko  
東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了。  
2000年から長崎大学。専門はエイやサメなど魚類学と水産資源学の研究。主な著書に『干潟の海に生きる魚たちー有明海の豊かさと危機』(東海大学出版)など。

れをどの角度でどんな風に描くのか、構図は描き手によって変わりそうなものです。富三郎は、図譜製作に費やした長い年月の間に、計五人の画家を雇いました。最初の画家である小田紫星が、図譜を描き始めたわずか一年後に三十五歳の若さで急逝したため、その後に複数の画家を雇うことになったようです。

ホシセミホウボウ魚図は、小田が一団を一九一二年に、そして最後に製作に加わった中村三郎が二団を一九一六年とその翌年に描いたものです。小田は東京美術学校（現在の東京藝術大学）で学んだ洋画家でしたが、中村は小学校卒業後に就職しており、画家たちの中で唯一、独学で美術を学びました。しかし、中村は長崎の郷土美術模写に携わるなど多才な人だったらしく、実は若山牧水に認められた歌人でもありました。想像するに、中村は富三郎からの指導に加えて他の画家の作品を手本にしながら、彼なりの感性を織り交ぜて技術を向上させていったのではないかでしょうか。彼もまた、病のため三十二歳の若さでこの世を去りました。しかし、今なお九州を代表する歌人に数えられています。

胸びれ前方の先端部分を手のように使い、砂の中にいる餌を探します。大きな胸びれに隠れて上からは見えませんが、内側をのぞいてみると、腹びれを交互に使い、海底を歩くように移動している姿があらわに。何ともユーモラスです。

長崎大学附属図書館のホームページでもご覧いただけます。

<http://oldphoto.lb.nagasaki-u.ac.jp/GloverAtlas/>

「グラバー図譜」は、長崎の実業家であった倉場富三郎氏が編纂したコレクションです。日本四大魚譜の一つといわれています。

グラバー図譜  
日本西部及び南部魚類図譜  
Fishes of Southern & Western Japan